



ドイツ証券会社、20年第4回公営企業債券（財投機関債）で共同主幹事を務める

【2003年10月24日、東京】 ドイツ証券会社東京支店（所在地：東京都千代田区、支店長：ジョン・T・マクファーレン）は、本日、公営企業金融公庫による期間20年の財投機関債発行で、モルガン・スタンレー証券会社東京支店とともに共同主幹事を務めた旨を公表しました。本案件は、ドイツ証券会社が公営企業金融公庫による財投機関債の起債において、本年1月に続いて2回目の主幹事を務めた案件となります。

この度の起債は、公営企業金融公庫による期間20年の第4回財投機関債で、発行額は200億円、表面利率2.09%、発行価格は99.90円です。払込日は2003年11月7日、利払日は年二回で、毎年3月20日ならびに9月20日となっています。なお、初回利払日は、平成16年3月19日となります。

発行体である公営企業金融公庫は、財投機関債に対して、格付投資情報センター(R&I)からAAA(トリプルA)、スタンダード・アンド・プアーズからAA-(ダブルAマイナス)の発行体格付けを取得しています。

ドイツ証券会社東京支店の中居英治債券本部長は、「当社は、公営企業金融公庫による20年財投機関債発行において、本年1月に続き2回目の主幹事を務めました。20年という長期の資金調達には発行体サイドの資金需要にマッチしていることに加え、長期債投資を考える投資家層のニーズにも合致しています。こうした案件で強みを発揮できることは、投資家および発行体双方のニーズを考慮に入れた債券資本市場業務に力を注いでいる当社にとり大変光栄なことです」と述べ、「今後も、ドイツ証券は日本の証券・資本市場の現状に適した資金調達を支援していくことで、同市場の活性化ならびに発展に貢献していきたいと考えています」と話しています。

以上

ドイツ銀行グループは、総資産約8,510億ユーロを有し、6万9,300人の従業員を擁する世界でも有数の金融機関として、世界76カ国で1,300万人を超える顧客の皆さまに幅広い金融サービスを提供しています。特に、企業金融、証券・投資銀行、トランザクション・バンキング、資産運用、プライベートウェルス・マネージメントの分野では、世界でもトップクラスの金融機関として、その地位を確立しています。また、ドイツおよび欧州大陸主要国においては、個人および中堅企業向けビジネスの分野で圧倒的な強みを発揮しています。

ドイツ銀行グループは、刻々と変化するグローバル市場を舞台に、お客さまに幅広い金融ソリューションを提供していくことを使命としています。私たちは、常に前進を続けるお客さまのニーズに徹底的に応えていくことこそが、株主の皆さまに価値を創造し、私たち自身の成長につながると考えています。

日本においては約1,350名の従業員を擁し、ドイツ証券会社東京支店（日本における代表者兼東京支店長：ジョン・マクファーレン）、ドイツ銀行東京支店、ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社（代表取締役社長：ティム・ハドソン）、ドイチェ信託銀行株式会社（代表取締役社長：関崎司）を通じ、企業金融、投資銀行業務、プライベートバンキング、資産運用などの広範なサービスを提供しています。

<この件に関するお問い合わせ先>

広報部

安立 聖子

電話: (03) 5156-7705

www.japan.db.com